

の池も自分でデザインしました。

なかよし動物園では兎が30羽いたのですが、子どもたちが動物の扱い方を知らないで、開園初日で5羽死んでしまいました。

開園の年に「冒険コース（アスレチック）」ができ、大変な人気でしたが、ロープを切られる事件が何度かあり、その都度お金がかかりました。開園間もないころ、大雨による土砂崩れで園路はズタズタになり、テニスコートは厚さ1m以上の土砂で覆われる大きな災害となりました。治山事業で防砂堤を作り、園路は都市災害で復旧しました。

栗山公園の整備に手がけることができ、大いに満足しています。建設大臣表彰の内定まで頂いたのですが、道内の年配の方のところへ譲ることになりました。

■道路の夢の話

札幌創成川整備をまねて、角田排水路を30m道路にする壮大な夢がありましたが、南大通りを4車線にすることになり夢に終わりました。しかし、その計画は今も残っています。

【栗山公園概要】

・位置：桜丘1-2丁目

・面積：約33.3ha

・総事業費：5億9,726万6千円

国費：園路、花壇広場、修景広場、遊戯広場、テニスコート、野球場、キャンプ場

町単費：修景付帯工事、栗山公園グランド整備、展望台修景、排水工事、野球場スコアボード整備、用地購入、動物園整備等々

（参考資料）

「栗苑」栗山中学校創立20周年協賛会

栗山町史第1巻、第2巻、第3巻

特別協力：坂口紀之氏

先に紹介した「栗山発達史」中の**新四国八十八ヶ所の霊場**について若干説明します。

※御大師山八十八霊場建立由来

明治42（1909）年7月、四国霊場20番奥の院、慈眼寺貫主が北海道巡錫の術、桜丘に在住の真言宗篤信家・藤原キシ氏宅に1泊、角田村に高野山支部が未開設であったことから、10数日滞在し八十八霊場の設置を出願し、本山の許可を得て支部の開設をみました。



- ・明治44年信者の篤志により、御大師山に「四国八十八ヶ所を模した霊場」を建立し、建立するにあたり四国八十八ヶ所本山寺の「土」を受け、各石仏の下に埋め祀っています。
- ・各石仏の間隔は、1間1里とし四国本山寺の距離を2,160分の1に縮尺したものです。
- ・石仏1体の建立費を15円とし、浄財を募り多くの人々の賛同を得て建立されました。
- ・当時、北海道では他に例を見ない霊場として多くの人々の巡遊を得ました。

新収集資料（8、11月）

8月 会田幹夫様（桜丘2）

・木彫りの鮭 1点

11月 宮林淑志子様（松風4）

・小枝の人形 56組（展示中）

11月 小松律子様（継立）

・ぜんまい式置時計（昭和）、こたつ（大正）

・第3回特別展

令和6年2月1日～3月6日

「栗山公園・御大師山八十八ヶ所石仏展」

・第4回特別展

令和6年3月22日～

令和5年度の新収蔵品展

- ・栗山町開拓記念館では栗山の歴史・産業・文化に関する史資料を収集しています。何かお気づきの物などがあればご連絡ください。
- ・昭和時代前後の古写真求めています。建物、風景、時期、状況が分かるもの、何でも。
- ・また、不要なショーケースがございましたらご連絡をお待ちします。

栗山町開拓記念館：☎ 72-6035

執筆者：栗山町開拓記念館 研究員 坂口 昇一 発行：栗山町教育委員会

栗山公園今昔物語



栗山公園は、昭和56（1981）年5月3日に開園し、今日に至っております。春は200本以上のエゾヤマザクラが園内を包み栗山町随一の桜の名所となります。近年の入園者数は、年間、約102,000人と札幌近郊からの来園者が多く賑わいを増しています。栗山公園は、御大師山の裾野に広がり、野球場、SL広場、野外ステージ、テニスコート、弓道場、冒険コース、さわやかトイレ、



なかよし動物園、遊戯広場、バーベキュー・キャンプ場、ファール森の森、オオムラサキ館を備え、長さ2千メートル余りの散策コースは約30分で周遊でき、家族揃ってくつろげる場所となっています。

この地は、明治21（1888）年の入地以来、ボンヌボリ（現在の御大師山）を中心

として昔ながらの樹木が鬱蒼と茂り、夏には涼味を誘い、秋は紅葉を飾るという天然の景勝地でした。土地所有者の杉武一郎は、明治42（1909）年、この地2万7千坪を行楽の場として地域住民に公開することを企画し、角田村（現栗山町）に寄付されたものでした。

■杉武一郎について

角田村創成期の開拓功労者（泉麟太郎、林梅五郎、渡辺大助ら）に名を連ねる一人です。明治2（1869）年、岡山県に生まれ、明治22（1889）年に、北海道開拓事業が国家の必要事と痛感し、国家貢献に奮起し家族を残して、40円を持って札幌まで行き、知人より馬追原野（現北長沼）の吉川鉄之助を紹介されます。すでに降雪の時期だったため、農業勉学のため札幌農学校管理の空知農場で雪中実習にあたりました。翌23年3月、吉川鉄之助、渡辺大助らの助力で雨煙別川左岸に入植したのは武一郎21歳のときでした。明治25（1892）年室蘭線開設時に当初計画されていた角田村に駅ができずに、一致

団結、猛運動の結果、翌26年、栗山に駅を置くこととなったのですが、その場所が村の各地で引き合い、武一郎は、所有地4万坪を寄付して栗山駅ができました。武一郎は、栗山駅の設置、栗屋学校と称する寺子屋式の私立教育所開設、栗山製線場の誘致、栗山公園用地の寄付など公共の福祉には進んで私財を寄贈し、村の総代人・村会議員も歴任しています。

■栗山公園と栗山神社

四季を通じて気軽に利用ができる健全なレクリエーションの場として、また開放的な社会環境を形成する公園計画が初めて栗山の地に樹てられたのは、杉武一郎から角田村に公園用地としての寄付がなされたことに始まります。

以下、大正6（1917）年の栗山発達史（有松準太郎著）からの引用です。

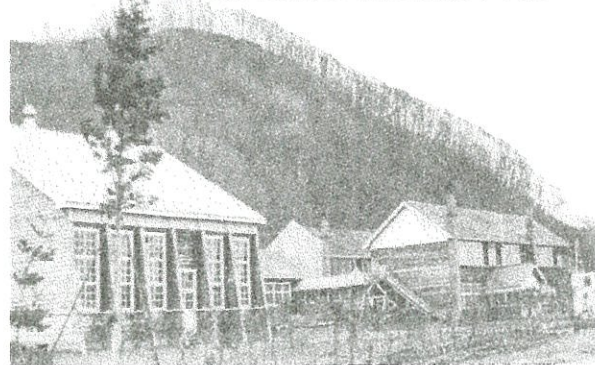
『明治42（1909）年、公園地管理のため、各戸1人づつ出して草を刈り、道を拓き、その基盤を作りました。明治44（1911）年、青年会員が桜苗100本を植えましたが、今（大正6年）は、1本もその影もみません。同（1911）年、有志が温泉場を開き公園の発展を試みましたが、上手くいかず只不動堂があるだけです。同年、篤志家により新四国八十八ヶ所の霊場を設け、更に金毘羅神社の分社及び太師教会をここに建築しました。大正4（1915）年、栗山尋常高等小学校父兄の記念事業で神宮遥拝場を設けました。頂上からは眼下に市街を見下ろし、羊腸の夕張川が馬追原野を逕流するのが見え、遠く江別の製紙工場の煙を望み～中略～栗山人が一致共同の力を以て公園の開発完成を期するのは独り栗山のためのみだけではない』

しかし、昭和3（1928）年11月、公園予定地は、栗山神社用地として所有権が移転したまま、戦争や社会変動に禍されて、移転をみずに終戦を迎えました。栗山神社は老朽化が著しくなり、再建となりますが、その地は市街地内という世論が昂まり、既存の用地（桜丘の元村有地）は、栗山公園として活用すべきであるという意見が盛り上がりました。昭和42（1967）年に至り、栗山神社は、前年閉鎖した帝国製麻工場敷地内に移設の機が熟し、社地を買収、今の桜丘の地に遷宮したのは昭和44（1969）年9月のことでした。

■栗山公園と中学校

この地を巡っては、公園用地として角田村に寄贈され、後に神社用地として移転され、更に戦後間もない昭和22（1947）年3月教育基本法及び学校教育法ができ、4月から新制中学校が発足したことにより、中学校用地の候補に挙がります。

創立当時昭和20年代の栗山中学校



村は、新中学校校舎の建設にかかり角田第一中学校（栗山中）は、御大師山の麓の神社用地を候補とし、他に帝国製麻用地・個人農用地との折衝を経て、各々多大な協力を得て昭和24（1949）年4月、一年間の借り住いの校舎（小学校・冶金・帝国製麻の小屋）から新校舎へ移転をみたのでした。村から町になったため名称は角田第一中学校から栗山中学校となりました。昭和42（1967）年、栗山・雨煙別・角田の3校の中学校を統合することとなり、その地を現在の湯地に定め、翌年着工、昭和44（1969）年12月竣工となりました。

桜丘の栗山中学校は、その後解体されました。解体を始めてすぐ、夥しい数の蛇が出てきて驚いた業者は役所に指示を仰ぎ、お神酒を撒いて清めました。

栗山町は、昭和24（1949）年6月、町の将来と文化都市建設を目指す都市計画町として建設省の指定を受け、さらに昭和32（1957）年11月、この地を都市計画公園地として建設省の認可を受けました。

町は、昭和42（1967）年11月神社用地を買収し、付近一帯を包括する近代公園を造成することとしました。

また、市街地内の環境を整備し、子どもの交通事故防止・災害時の避難場所確保などの見地から小公園・緑地帯の建設も併せて行われ、昭和43（1968）年から順次、ひばり、さくら、ひまわり、ふたば、にしき、かくた、児童公園、松風（各児童公園）を設置しました。

栗山公園の本格造成工事は、昭和48（1973）年から

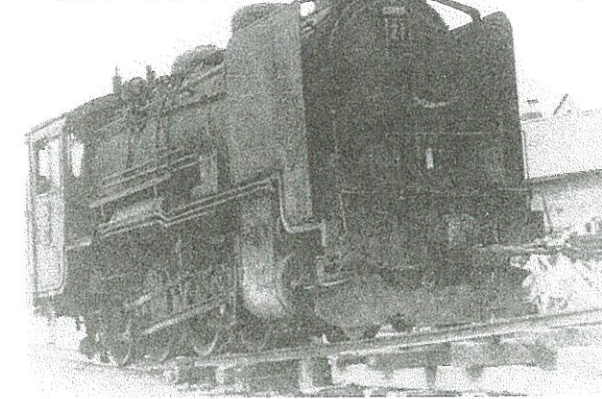
55（1980）年までの8年間で、担当したのは、当時建設課土木係にいた坂口紀之さんでした。

以下は、坂口さんからの聞き取りをまとめたものです。動物園の名は、札幌市の円山動物園にある同じ名の「なかよし動物園」にあやかりました。動物を飼育管理するにあたり、どのような施設にすべきかを学ぶため円山動物園へ研修に出向きました。3日間でしたが大変勉強になりました。釧路市から鹿を3頭譲り受けました。

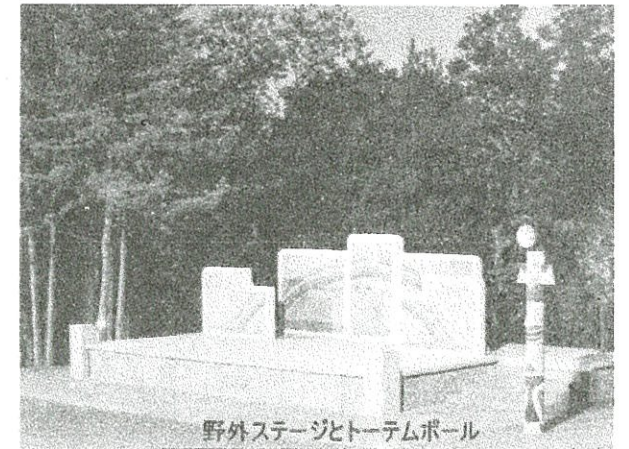


用地買収では、キャンプ場、野外ステージ辺りは桜丘1丁目の土地所有者の後藤さんと縁があって親しくなり、気持ちよく買収に応じてくださいました。また、後藤さんは口バを3頭寄贈してくれました。町長（当時、則武町長）は、鳴き声で近辺に迷惑が掛からないか心配をしていたが、大変おとなしく静かだということで安心していました。しかし、繁殖期になると雄も雌も大声で吠え、閉口した思い出があります。

栗山公園へ移動
昭和51（1976）年



ほかにも寄贈は沢山ありました。SL、展望台（今は老朽化で建て替えられました）、モニュメント、御大師



山頂上の四阿、樹の植栽、テニスコートの脱衣所などを寄贈いただき、地元企業の皆様には感謝しかありません。

遊戯のコンクリート製の滑り台（今は新装されました）、藤棚の四阿をデザインし、トータムポールは注文発注しました。野外ステージのデザインは、栗山小学校の生徒から案を募りました。今でいうコンペです。虹のかかったきれいなデザインを活かすため、世界中から色が付いた石を集め貼り付けています。出来を見た上司は色がくすんでいるのでやり直しを指示されたのですが、町長の判断を仰ぎ、このままで良いということになりました。このことがきっかけで間もなく退職することになります。



遊戯広場のスツールは自分でサル、フクロウ、タコのデザインを施しました。開園日は、子どもが集まるようにと連休の5月3日にしました。抱えきれないバッジを運んでいた私に、町長が「それは何に使うのか？」私は「子どもたちに、缶バッジ（スツールと同じデザイン）を配るんです。」と説明すると、「それはいいアイデアだ」と感心していました。子どもたちは大喜びでした。水鳥